

### 第3回みやぎ観光振興会議大崎圏域会議 概要

#### 委員からの主な意見

- ①施設側の自己点検だけでなく、外部機関が指導するといった安全・安心を担保するような取組にすべきである。また、周知は報道だけでなく、口コミの方が効果的で、差別化に繋がる。
- ②大崎圏域でワーケーションを推進する場合、対象としては仙台勤務者が中心になると想定されるが、交通費等のコスト面では不利となるので対策をお願いしたい。
- ③デジタル技術の活用は今後必須となる可能性が高い。感染予防のためにもホテルのチェックイン・アウトのシステム導入に支援してもらいたい。
- ④世界農業遺産の取組により観光スポットに設置した看板にQRコードを表示しており、読み込むと解説の映像を見ることができる。このような看板を多く設置してはどうか。
- ⑤回復戦略のロードマップのスケジュールどおりに進むことは難しいのではないかと。
- ⑥会議等への旅館の使用は利用者が少ないと聞いており、家族向けが良いのではないかと。
- ⑦アウトドア（キャンプ）の客が増加しているが、施設の宿泊客と比較すると消費額が小さい。
- ⑧観光バス等による団体旅行が激減しており、団体旅行があっても、現在は1台に定員の半分の20人程度しか乗せていないため、1台分の人数を2台のバスで移動している。
- ⑨県内の観光客を対象とした観光（マイクロツーリズム）を通じ、ファンづくり等の地道な活動が必要である。
- ⑩県外から大勢の観光客を呼び込むことは、コロナがもう少し収束してからではないかと。
- ⑪デジタル技術の活用、回復に向けたイベント開催等は、一市町村だけでは難しい。県・他市町村・観光関係者等との連携した取組が不可欠である。
- ⑫商店（土産物店）の方々の努力している姿が見えにくい。